

JICA 課題別研修「スマートシティ実現に向けた手法・アプローチ」の受入実施 (2024/9/5)

テーマ：JICA 課題別研修「スマートシティ実現に向けた手法・アプローチ」の受入実施

会場：災害科学国際研究所

URL：https://www.jica.go.jp/Resource/brazil/portuguese/office/courses/index/14_01.pdf

2024（令和6）年9月5日（木）に、JICA 課題別研修「スマートシティ実現に向けた手法・アプローチ」の受講生8名（カンボジア・ブラジル・エジプトの政府・自治体関係者）が災害科学国際研究所に来訪しました。

この研修は、新興国・途上国の自治体がスマートシティの技術等を活用して都市課題を解決していくにあたり、日本の知見や事例を元に、技術の活用や関係者の調整に係る手法の理解を深め、取るべきアクションについて整理して検討できるようになるために、日本のスマートシティの取り組み状況、アプローチを体系的に学習することを目的としています。国レベルでの計画・戦略、法制度整備、推進体制から地方自治体の事例を学ぶ構成になっており、これまで内閣府・国交省・デジタル庁でのカリキュラムや宇都宮市での LRT（Light Rail Transit）等の視察を終え、この日の午前には仙台市におけるスマートシティの官学民連携や、BOSAI-TECH の取り組みについての説明を受けた上で、午後に当研究所に来訪しました。

本学からは共創戦略センターの山田健一特任教授、当研究所から御手洗潤教授（防災社会推進分野）、佐々木大輔准教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）と鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が参加しました。

山田特任教授が 1907 年に創立された本学の特徴や、ナノテラスを含む主な取り組みを説明し、佐々木准教授が仙台防災枠組とこれに対する当研究所の貢献、現状評価と振り返りについて解説し、鎌田特任教授が当研究所の成り立ちと特色等を説明しました。

この後、一行はナノテラスを見学しました。翌日の午前中には、この研修の受け入れをアレンジした御手洗教授等によって、泉パークタウンにおけるエリアマネジメントとスマートシティ等の講習と視察を行うとともに、午後には公共政策大学院において同大学院生とともにワークショップを行いました。

各国からの受講生の関心は非常に高く、講義が終わった後も熱心に質問がされました。

当研究所では仙台防災枠組の各国での推進に資する取り組みを積極的に支援しており、今後も継続していきます。



本学の紹介をする山田特任教授



仙台防災枠組の説明をする佐々木准教授